

令和 7 年度 県立友部特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆明るく楽しみなぎる学校 ◆力いっぱい活動できる学校 ◆家庭や地域に開かれた学校		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
○コロナ後久しぶりに実施した学校全体行事については、行事を通して児童生徒は達成感を味わうことができた。 ○学校研究で授業づくりを目標とし、全教員で取り組んだ結果、各々の授業改善や自立活動に関する理解につながった。 △授業づくりでは、各教科の「見方・考え方」をおさえ、「身につけさせたい力」を明確にすること。その上で、各教科と自立活動の関連をおさえて、授業づくりに活かしていくことが課題。 ○障害の多様化や家庭環境を背景とした支援の難しいケースもあるが、学校、寄宿舍、家庭、関係機関等の連携を密に取りながら進めている。 ○コミュニティ・スクールは、情報発信と、校外資源の活用について取り組むことができた。 △地域資源を授業づくりに活用していくこと、また、保護者への情報発信が課題。 ○常に意見交換のできる風通しの良い職場環境を目指している。チームで課題解決に取り組む体制を構築している。 ○働き方改革については、各自が自己管理しながら進めている。	1 授業づくりの推進	① 各教科等における育てたい力を明確にし、「できた」、「わかった」、「もっとやってみたい」と感じる授業づくりの推進 ② 各教科等において育まれる資質・能力を支える自立活動の指導目標や指導内容の評価及び改善 ③ I C T の効果的な活用と教師間の情報共有、職員研修の実施	
	2 地域とつながる学校づくり	④ 全校あいさつ運動の実践（あいさつマイスターの認定） ⑤ 卒業後の視点を踏まえた小学部・中学部・高等部の系統性のあるキャリア教育の推進 ⑥ コミュニティ・スクールの活用による教育活動の充実（地域資源の活用、とんとくマルシェ、交流及び共同学習、情報発信等） ⑦ 教員の専門性向上に向けた各種研修の実施と多様なニーズに対応するセンター的機能の充実	
	3 体力の向上と豊かな心の育成	⑧ 自分の良さや可能性に気づき、相手を尊重し人を思いやることのできる豊かな心の育成 ⑨ 専門家や保護者と連携した安全・安心な給食と食育、健康教育の推進（からだが喜ぶ給食） ⑩ 児童生徒が主体的に取り組む防災安全教育の計画的な実施 ⑪ けがや病気をしない丈夫な体づくり、体力づくりと衛生面の意識向上	
	4 教育環境の整備と信頼関係の醸成	⑫ 児童生徒が安心して学習や生活ができる教育環境（施設設備等）の整備 ⑬ 児童生徒及び教職員の事故防止に向けたヒヤリハット事例の共有、各種マニュアルの見直し・改善による危機管理体制の充実 ⑭ 服務規律の確保とコンプライアンス意識の更なる向上を目指したボトムアップ型研修の計画的な実施 ⑮ 児童生徒の手本となり、おもてなしの気持ちと明るくきれいな学校を目指す取組（整理・整頓・清潔・清掃）	
	5 働き方改革	⑯ 時間の使い方についての意識改革と勤務時間の適正管理 ⑰ 業務改善（校務・行事の見直し、効率化、I C T 活用）による、授業づくりの充実	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	各教科と自立活動の関連を意識した授業づくりを推進する。	・校内研究が円滑に進むよう研修研究係と企画係が連携して話し合いを進め、必要に応じて管理職から指導・助言、支援を行う。 ・各部主事が部内研究を牽引できるよう、企画係全体で進捗状況を把握し、助言を行う。 ・授業参観、計画訪問の機会を捉えて部主事、管理職から授業改善への助言を行う。	1－① 1－②		
教職員の 育成及び 指導・監督	児童生徒の資質能力の育成を組織的に支えるための人材育成と専門性の向上を目指す。	・外部講師による授業づくりに関する研修を実施する。 ・学校研究を活用して、学年主任を中心に各学年の児童生徒の資質能力の育成を意識した授業改善を行う。 ・児童生徒の体力づくりや体づくり、豊かな心づくりについての取り組みを充実させる。	2－⑦ 3－⑧ 3－⑨ 3－⑪		
対外活動	地域住民や近隣の関係機関、施設職員等とつながることで、教育活動の充実を図る。	・コミュニティ・スクールの活用により教育活動の充実を図る。（地域資源の発掘、授業づくりへの活用、保護者への発信） ・進路指導の充実を図る。（事業所説明会の実施 等） ・センター的機能の充実を図る。（特別支援教育連携充実事業 等）	2－⑤ 2－⑥ 2－⑦		
コンプライ アンス確保	職場での良好な人間関係を構築し、風通しのよい職場環境を築く。	・報告・連絡・相談がしやすい職場づくりに取り組む。 ・統一テーマを題材とした各部研修を実施する。 ・コンプライアンスだよりを月1回以上発行する。	4－⑫ 4－⑬ 4－⑭ 4－⑮		
働き方 改革	時間の使い方についての意識改革をすすめ、勤務時間の適正管理を図る。	・勤怠管理の目的の明確化と自己管理の必要性を伝達する。 ・勤務間インターバルを意識した働き方を推進する。 ・業務の削減に向けた提案を行う。（会議の精選、ICT活用、環境整備）	5－⑯ 5－⑰		
I C T活用	全児童生徒に対し、ICTを活用した支援により、より主体的な活動を引き出す。	・授業等で積極的なI C Tの活用を図ることができるよう、他校の授業参観の実施や効果的な活用について情報提供を行う。	1－③		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない